

1 研究主題

自ら課題を見つけ学びを深める活動の実践
～対話的な活動・伝え合いを通して～

2 目指す児童像

自ら課題を発見し、主体的に学んでいく力を身につけ、実りある学びができる児童

3 主題設定の理由

令和6年度から主体的な学びを引き出すために効果的な「課題設定」に重点を置いてきた。課題を解決していく過程では、仲間と互いの意見を伝え合い、さまざまな考え方や新しいアイデアを生み出す活動をおこなってきた。これらの活動を通じて、学びを深める実践に取り組んできた。また、効果的な対話を促進するために、オープンで子どもたちが安心して交流できる環境を作ることにも取り組んできた。これらの要素を取り入れ、課題解決のプロセスを通じ、獲得した知識やスキルを実際の場面に応用することで「深い学び」に繋げることができた。

深い学びに向かうためのプロセスの例

- ・振り返り：学習の過程を振り返り、何を学んだかを確認。
- ・応用：獲得した知識を次にどのように実践で活用できるかを考える。
- ・フィードバック：自己評価と他者からのフィードバックを活用。

一方で、児童の中には、話し合いの活動がうまくできなかつたり、考えが深まらず、自分の意見を伝えられなかつたりする場面も見られた。そのため、グループ活動では仲間と知識を深めることができなかつたり、授業の中で学びを十分に活かすことができなかつたりしたことが課題として残った。令和7年度は、昨年度までの実践の主題であった「伝え合う活動」の実践の進化を目指す。前年度までの取組を継続し、知識のインプットとアウトプットの相互作用を通じて、学びと課題解決に新たな可能性を見出したり、学びを深化させたりする方法をへと引き継いでいく。令和7年度は、仲間の考えや知識のインプットとアウトプットを繰り返すことで、学びをより深化させたい。また、新たな知識の定着を図り、課題を自分事として捉え、実生活での応用に繋げていきたい。さらに、教師側や教科書を通じて与えられた課題を解決するだけでなく、自分の興味や疑問を広げ、「自ら課題を設定」し、解決のための学びを深めていく活動も実践する。

上記を通して得た学びから、児童が生活していく中で、さまざまな困難に向き合える力を身に付けさせたいと考えた。そのためには、柔軟な思考と適応力を養うことが重要であり、仲間との学校生活の中で多くの経験を積み重ね、失敗から学び、成功を喜びとする心の在り方を育てていきたい。さらに、多様な視点をもつことで、問題解決の糸口を見つけることができるように、支援をしていく。

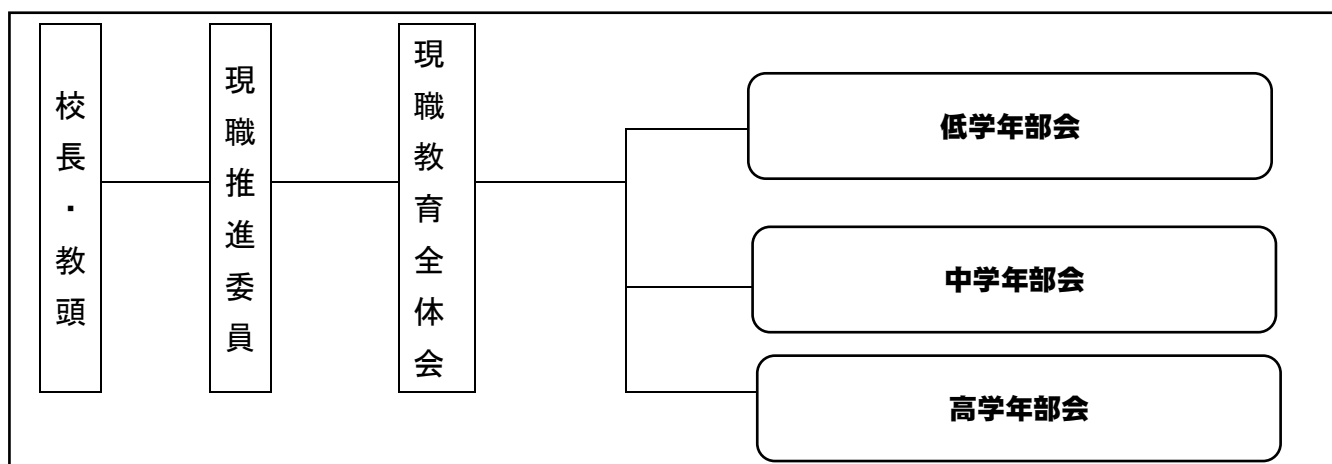
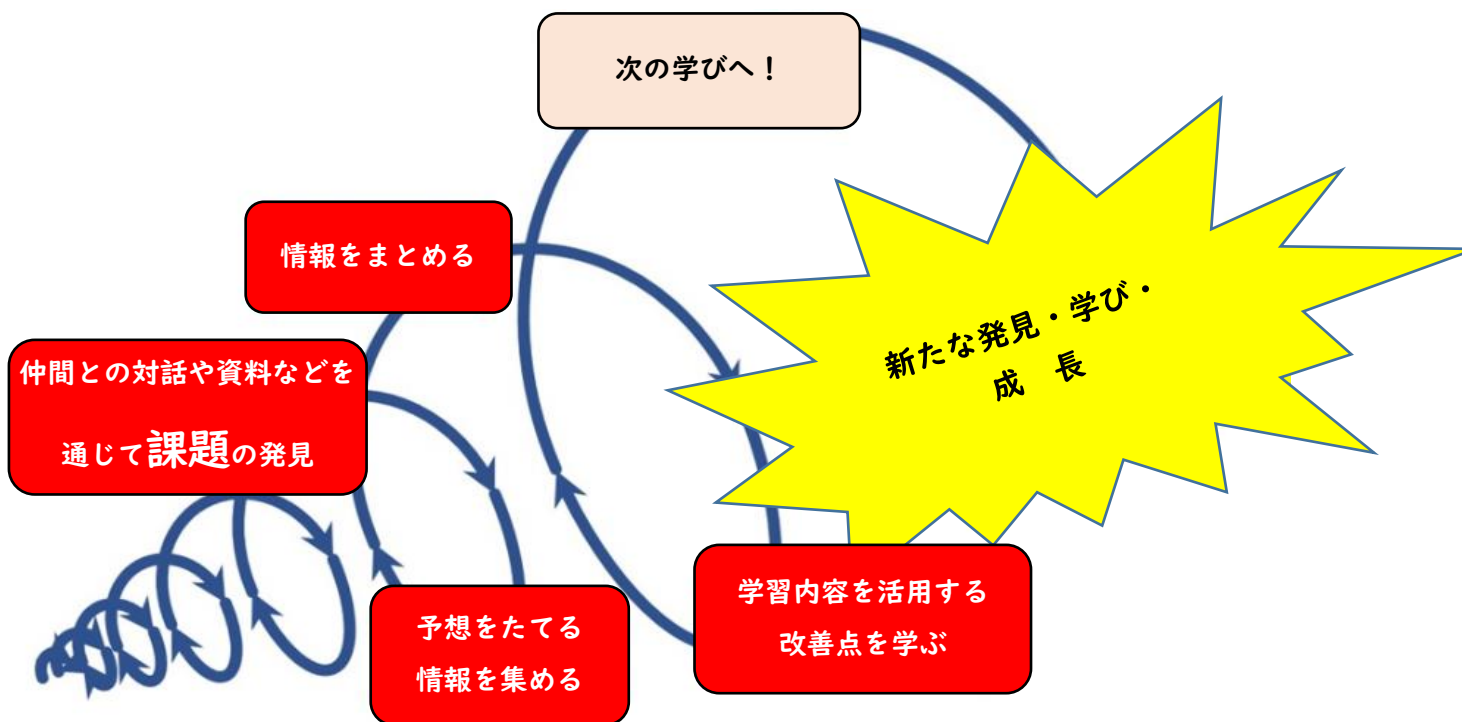
3 研究の計画

(令和6年度) 導入期：児童主体の対話的な活動の推進…挑戦し続ける、可能性を広げる
(令和7年度) 成長期：考える力を引き出す「課題提示」…学びを深める効果的な方法を探る
(令和8年度) 成熟期：自ら課題を見つけ、思考を深める学びの実践
…ポジティブなフィードバックやアドバイスの提供

4 研究の仮説

- ・授業での学びを基に、疑問点や新たな課題を自ら設定し、解決に向かうことで、学びを深めることができるだろう。
- ・伝え合う活動が、授業や課題解決をしていく際に、適切に取り入れられることで、学びを深めることができるだろう。

【研究構想】



6 研究の手立て

(1) 技能習得プラン

- ① 昨年度より発展させた形で「伝え合い活動」を推進していく。「話す・聞く・(書き出す際は、ICT 機器の活用を目指す)」技能の基礎力向上を目指す。

	話 す	聞 く
1・2年生	- 与えられた課題や問われている内容に沿って話す。 - 自分の経験に基づいて話す。	- 仲間が知りたいことや、自分が聞きたいことをできるだけ落とさずに聞く。 - 仲間の発言を受けて話をつないでいく。
3・4年生	- 仲間の意見を自分で比較したり分類したりしながら話す。 - 司会や提案者などの役割を果たしながら、進行に沿って話す。	- 必要なことを記録したり、質問したりしながら聞く。 - 仲間の考えや意見の共通点や相違点に着目しながら聞く。
5・6年生	- 仲間の意見を分類したり関係付けたりしながら話す。 - 資料を活用しながら話す。 - 立場や目的、時間配分などを明確にし、計画的に話す。	仲間の話の内容を捉え、話し手の考えと自分の考えを比較しながら、考えをまとめる。

- ② 一週間に一度、図書館を利用する「図書館デー」を設定する。

- ③ 学年に応じたプランに沿って、ICT 機器の活用を心がける。

(3) 校内研修の充実

- ① 低、中、高学年部会の持ち回りで研究授業を計画し、全体で協議会を行う。
・「伝え合う」場面を含む公開授業を実施し、全員が参観するように心がける。
- ② 伝え合う場面では、具体的にどのような内容について話し合っているか、常に明確にするために、「見える化」する。
- ③ 次学期に研究授業を行う際は、前学期の反省を引き継ぎ、授業を計画する。
- ④ 研究授業と研究協議会の内容についてまとめた「現職だより」を発行し、全体に共有する。

(4) 外部講師による校内研修

- 現職教育のテーマに沿った研修、また、希望する内容の研修に関してアンケート調査を行う。

(5) 学習環境の整備

- 本校で定められている学習環境の整備にあたる。児童が積極的な学びができる場づくりに努める。

（６）学習規律の確立

- ・教室環境の整備、ノートのととり方、学習の決まりなどを、学年や部会（低・中・高）で統一し、学年ごとに積み上げられるようにする。

７ 研究の年間計画

月	日	内 容	備 考
4	2	現職教育推進委員会	令和7年度全体計画の骨子再検討
	3	現職教育全体会	救命救急法（１）
	10	現職教育全体会 校内公開授業年間計画作成	令和7年度全体計画の提案・検討
	28	現職教育全体会	救命救急法（２）
5	14	校内自主研修会 研究授業（高学年） 職員対象公開授業の振り返りと検証	指導案の書き方研修 現職教育のテーマに沿った授業公開 事後の授業に活用できる手段を検証
6		研究授業（中学年） 職員対象公開授業の振り返りと検証 校内研修（研究協議について）	現職教育のテーマに沿った授業公開 事後の授業に活用できる手段を検証 研究協議会について検証
7	1 18 31	学校訪問 現職教育全体会 現職教育全体会	現職教育のテーマに沿った授業公開 外部講師招聘 防災学習（不審者対応訓練）
8		東海市教員全体研修会 東海市教員研修会	自己研鑽を図り、情報を共有する
9		現職教育全体会	外部講師招聘
11		情報交換会 研究授業（低学年）	事後の授業に活用できる手段を検証
12	22	情報交換会 現職教育全体会	外部講師招聘
1		研究授業	事後の授業に活用できる手段を検証
2	9	現職推進委員会	研究のまとめ・次年度にむけて
3	2	現職教育全体会	研究のまとめ・次年度にむけて